

総合的な放課後児童対策における子どもの遊び及び生活の環境設定等に関する調査研究

大妻女子大学

本調査研究では、「放課後子ども総合プラン」の取組を進める中で、放課後や長期休暇期間中に長時間子どもが生活の場として過ごすことになる放課後児童クラブにおいて、子どもの発達の特徴や児童期の発達過程を踏まえて、発達段階にふさわしい遊びと生活の環境をどのように設定すればよいのか、これまでの実践や考察を通じて、放課後等の子どもの望ましい過ごし方について提言することを目的として進められてきた。

より具体的には、放課後等における異年齢集団の中での子どもの発達段階に応じた適切な遊びや生活の環境とはどのようなものか、特に遊びと生活の関係性をどう捉えるか、その環境設定に当たり必要なこと及び留意すべきことは何かについて、平成27年度の調査研究に基づき類型別で選んだ12市町村内の12放課後児童クラブを対象に調査を行うと共に、専門領域の異なる学識経験者へのヒヤリング調査を行うことを通じて分析、考察をしている。

第1章においては、本調査研究の背景と目的・方法について述べた。

第2章では、12放課後児童クラブを利用している児童を対象に、「子どもの生活時間調査」（アンケート調査）を行い、24時間の生活の中での放課後児童クラブの生活の意味を明らかにしている。

第3章では、12放課後児童クラブでの子どもたちの生活の様子を放課後児童クラブで職員として働いた経験のある調査員による記録調査（「放課後児童クラブの生活調査」）を行い、「遊び」及び「生活」の現状を把握した。

第4章では、上記12放課後児童クラブの指導員に対しヒヤリング調査を行うことをとおして、「安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境」「発達段階に応じた主体的な遊びや生活」を保障するうえで課題と感じていることを明らかにしている。

第5章では、子どもの生活、子どもの発達、子どもの住環境等の専門分野が異なる6名の学識経験者へのヒヤリング調査を行い、放課後等における異年齢集団の中での子どもの発達段階に応じた適切な遊びや生活の環境とはどのようなものか、特に「遊び」と「生活」の関係性をどう捉えるか。また、その環境設定に当たり必要なこと及び留意すべきことは何か。さらには放課後児童支援員等の関わり方について述べている。

最後に第6章では調査結果を踏まえ考察を行った。すなわち、放課後児童クラブは適切な遊び及び生活の場を与えて、児童の健全育成を図ることが目的である。その「適切な遊びや生活」の環境とはどのようなものか。特に遊びと生活の関係性をどう捉えるか。本調査研究では、「生活」における「適切」性とは何か、「生活」をどのように理解し、意識することが求められるのか、その課題を明らかにした。放課後児童クラブの「生活」は、目的的な活動だけでなく多様な内容が保障される自由な時間のなかでの「生活」であり、「日常」という視点が求められる。また、「遊び」における「適切」性とは何か。そのためには子どもにとっての「遊び」をどのように理解し、意識する必要があるのか、その課題として、ルールのある遊び、定型的な遊びだけではない、自由で主体的な、時に形としては捉えられない活動を「遊び」として捉えていく視点が求められる。

また、放課後児童クラブの「生活」と「遊び」は一体である。それが保障されるための環境（施設環境だけではなく、適正な子ども集団の規模、放課後児童支援員と子どもの関係、放課後児童支援員の専門性）も求められることになる。